

書籍

公共交通機関のユニバーサルデザイン

福岡市地下鉄3号線JVグループ

1995年当初の「地下鉄3号線駅舎建築デザイン業務」の契約期間は1年だったということにまず驚いた。トータルデザインを行うためには、長期的な取組が必要であることを提言され、それから1年、また1年が丁寧に確実につむがれ、ついには10年に及んだプロジェクトとなったという事実は、当時関わっていた方々の多大な努力の賜物と拝察される。

「トータルデザイン」を目指して、これまでの手法である縦割りの組織下での、土木、建築、サイン、設備、設計、電気、車両、営業等がそれぞれがチームを作り、プロジェクトを進行させようとしても、何らかの無理が生じる。今回、縦割り組織に、横糸の役割を果たすことになる「デザイン監修システム」を構築され、長期に及んだすべての領域のデザイン監理をされたことも、成

功の大きな要因の一つだと評価される。また、長期にわたり、同一の思想、コンセプトに基づき、お互いに信頼関係をもって取り組もうとプロジェクトがスタートしても、担当者が異動となれば、1人により一つ以上の分断が生じることは想像にあまりある。このプロジェクトでは、諸官庁や組織の各々の決まり事がある中、「ヒューマンライン」を作るという共通の目標を達成するために、産学官民の共同体制を整えたということは、画期的なことと思われる。

デザインにおいては、地域住民など利用者への細かい心づかいと配慮が感じられた。16駅ある駅は、デザインや使用素材において、それぞれの地域の特長や環境に十分に配慮されたものとなっており、また全ての車両が留置され、点検整備されるという車両基地は、基地として

の機能だけでなく、〈公園的な景観整備〉〈見学動線の整備〉〈省エネルギーへの取り組み〉など多面的な利用方法を想定したデザイン指針を定めて計画されており、現在県外からも多くの利用者、見学者が訪れているということは、本当に素晴らしいことである。

駅舎、車両、車両基地などすべてがトータルにデザインがされたとき、利用するすべての人々が、機能的にも、感覚的にも快適に利用できる、本当の意味での「パブリックデザイン(ユニバーサルデザイン含有)」となりうるということを示してくれた。今後のパブリックデザイン、ユニバーサルデザイン、またプロジェクトを推進する組織、手法などに様々多大な寄与をしていただいたことが、特別賞として評価された。

design point 4
わかりやすい情報提供を
実現するために

method 3 ユニバーサルデザインのサインシステム

A Universal Design for Public Transportation



1.2.3. 駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。また、駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。また、駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。

088

Chapter 2

トータルデザインの手法



1.2.3. 広く見渡せる駅舎内を、駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。また、駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。

089

Chapter 2

トータルデザインの手法

次郎丸
Jiromaru

清らかな水を求めて、舞い飛ぶホタルの光は、優しさとやさしさを運んでくれます。次郎丸駅のシンボルマークは、現在でも室見川上流で放流されるホタルをデザインしました。美しい川にホタル、こい。地域の人々のそんな願いが込められています。

梅林
Umebayashi

梅の花を名前にもつこの地は、油山を望む自然豊かな地域です。梅林駅のシンボルマークは、地名にちなんで、咲く梅の花とつぼみをデザインしました。白、ピンク、紅、早春に薫る花々が可憐に咲き誇るまじりになりますように、そんな願いを込めました。

茶山
Chayama

かつてこの地には、茶畑が広がっていました。まぶしいほどに色づく青々とした茶葉。茶摘み歌を口ずさみながら、一つ一つ葉を摘み取る人々の姿が浮かびます。茶山駅のシンボルマークは、お茶の新芽をモチーフにデザインしました。

design point 4
わかりやすい情報提供を
実現するために

method 3 空間の記号化—照明による場の特化



1.2.3. 駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。また、駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。

1.2.3. 駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。また、駅舎利用者の動線がわかりやすいように、駅舎内を広く見渡せるようにエレベーターの設置が図られた。

088

Chapter 2

トータルデザインの手法



福岡市の地下鉄は日本で初めて駅ごとにシンボルマークを採用した地下鉄である。風景がない地下空間ではシンボルマークが地名や場所のイメージを増幅し、駅に物語を浮かび上がらせる。コンコース階にはシンボルマークの由来と地域をイメージしたイラストが表示されている。

シンボルマークデザイン/
株式会社アトリエ画
イメージイラスト制作/
西島伊三雄氏 (福岡市名誉市民)